



## 四季便り

The Garden of Medicinal Plants, Kinki University



### コウホネ

学名	: <i>Nuphar japonicum</i>
生薬名	: 川骨(せんこつ)
薬用部位	: 根茎
薬効	: 利尿、止血、強壮など



コウホネはスイレン科の水生植物で、属名の *Nuphar* はアラビア語の「*neufar*(スイレン)」からきています。5~8月に小川や池のほとりなどの水辺に鮮やかな黄色い花を咲かせます。水位の変動に対応できるよう細長い膜質の「水中葉」と、長卵形の「水上葉」の2種類の葉を持ちます。

コウホネの名は、カワホネ(河骨)が変化したもので、水底の泥の中に横たわる太くて白い根茎が骨のように見えることから名付けられました。

古くはコウホネの根・根茎はアメリカ原住民をはじめ世界各地で食用とされていたようです。中国でも飢饉の際には救荒植物として利用していたとの記載があります。

生薬「川骨(せんこつ)」は10~3月に根茎を掘り取り、ひげ根を除いて約30cmに切り、それを二つに割って天日乾燥したものです。アルカロイドのヌファリジン含有し、瘀血(血流の滞り)を除き、止血、利尿、強壮などの作用があり、解熱鎮痛消炎を目的とする漢方方剤や婦人用薬に配剤されています。

日本各地で分布する川骨ですが、肥大して折面が白く粉性のものが良品とされており、採取時期の気温が低いほど内部色が白く仕上がるため、北海道や東北地方の生産品が好まれています。

